

新メンバー紹介(2)



早川 正則さん

ヒメボタル、アサギマダラなどの観察から相生山に興味を持っていたところ、くらぶのニュースレターをみて参加したいと思ったそうです。天白区植田在住。



青山 孝さん, 倫子さんご夫妻

趣味は孝さんが電気工作、家庭菜園、倫子さんが旅行、トールペイント、花など。天白区役所の「天白もりのフォーラム」の案内が参加のきっかけだそうです。

オアシスの森くらぶに参加して

青山 孝

もともと“自然”に興味を抱いていた私ですが、具体的な活動をする為の入口に接する機会も無く過ごしていましたところ、この度オアシスの森くらぶを知り、参加してみました。活動内容は結構きつい面もありますがたまに息を付くイベントもあり、次第に楽しく参加できるようになってきました。殊にメンバーの方々は“自然”に関しての深い知識をお持ちで色々な事を分かり易く教えて頂けるので嬉しく思います。

トンボや蝶、草、木についてもトンボ、蝶で終わっていたものがクロスジギンヤンマとかアサギマダラとの本名?で区別しているところは感心しました。と言うのも、私も昔は蝶の採集に飛び回っていたことがありますから…。

里山の本来あるべき状態がどういうものであるか、またその状態をどうすれば維持できるのかがひとつひとつ理解できていく感じで、無理なく長続きできるように思いました。

椎茸の菌打ちに参加して

青山 倫子

2月14日、昨夜の雨模様から一変して朝から4月上旬並みのポカポカ陽気。

以前カットしたコナラを小屋に運び、皆で次々とドリルで穴をあけ、木槌で椎茸菌を埋め込んでいきました。途中、散歩する人達も珍しげにこの光景に足を止めていました。



初めての経験で、何もかもが新鮮であり、楽しく1日を過ごしました。椎茸が成熟するのが1年から2年かかると聞き、スーパーでの値段が高い理由に納得。

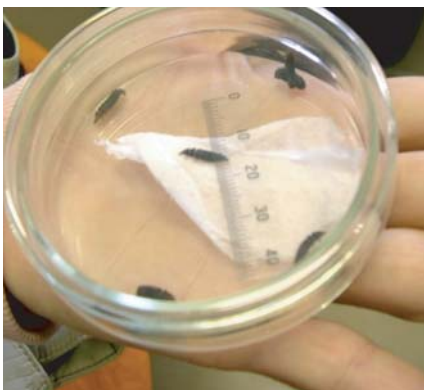
◇ ◇ ◇

一輪車でコナラを運ぶ途中、一羽のキチョウを見かけた。今日はバレンタインデー、相手をまだ見つけられなかったのかな?

シリーズ『森の住人たち』②②

～ヒメボタルの幼虫～ —はかなげな幼虫の発光—

ヒメボタル ホタル科
体長 13mm (終齢幼虫) 分布 青森県～九州
食餌 オカチョウジガイなどの陸貝



捕獲したヒメボタル幼虫

4月13日20時、9人が調査地に集う。目的はヒメボタル幼虫調査。かつて「ヒメボタルホイホイ」なる仕掛けを利用したが、今回は仕掛けなしで

行うことになった。各人が地表を探り両眼でしっかり観察して捕獲するというきわめて基本的な調査法を採用。夜間に実施する目的は、ヒメボタルは成虫のみならず、幼虫も発光する。その光を手がかりに、捕獲率を高めることにある。

幼虫捕獲に適した場所を探す。枯葉や小枝などを棒切れで除ける。湿った土の匂いが立ち上がってくる。闇の中で目を凝らす。

「光ってる！ ヒメボタルの幼虫かな～」

2m程後方からOさんの声が聞こえた。その声のもとに駆け寄る。小さ

な幼虫が光を放っていた。成虫の力強い発光と違い、いかにもはかなげである。リーダーのYさんが、間違いなくヒメボタルの幼虫だという。

「よ～し、がんばるぞ～」

メンバーは、再び作業を続ける。

「いたよ～」

「こっちにもいるよ～」

そんな声が、あちらこちらから聞こえはじめた。不安定な斜面で身体のバランスをとりながらの調査は、容易ではない。しかし新たな知見につながる予感に、私たちは黙々と作業を継続するのだった。

(文責 自然案内人 近藤 記巳子)